

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

平成20年度新規

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	農村集落排水施設維持管理事業										
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	下水道係	評価票作成者	汚水・維持担当係長 星子 恭士			
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 安全・安心で、うるおいのあるまちづくり			基本施策	下水道	コード	1 2 6			
					単位施策(中)	農村集落排水施設の維持管理	コード	1 2 6 3			
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(小)	機能強化対策	コード	1 2 6 3 1			
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	農村集落排水施設を利用する市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		農村集落排水施設を維持管理し、農村部における生活基盤を適正に保持することで市民の快適空間を確保する。					
1-5 事務事業の内容	農村集落排水区域内の污水管、MP、沓掛浄化センターの維持管理、下水接続確認申請受付・許可・検査等										

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識					
	平成18年度										
	平成19年度										
	平成20年度	管清掃、水質検査、機器修理等最低限の維持に努めた。		将来を想定した、効率的な維持管理を実施、公衆衛生の向上に寄与し、あわせて公共用水域の水質保全に役立てる			最小の経費で、最大の効果をあげ、公衆衛生の向上に寄与し、環境保全を図る。				
	平成21年度	"		"			"				
	平成22年度	限られた予算の中でできる最低限の管清掃、水質検査、機器修理等に努めた。									
	平成23年度	限られた予算の中でできる最低限の管清掃、水質検査、機器修理等に努めた。									
	平成24年度	限られた予算の中でできる最低限の管清掃、水質検査、機器修理等に努めた。									
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	污水管清掃			18.5(km)	37(km)	污水管清掃の延長				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a (単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b (千円)			1,010	411	946	370	2,310			
	人件費 c (千円)			3,312	1,104	1,044	1,023	996			
	合計コスト d (b+c) (千円)			4,322	1,515	1,990	1,393	3,306			
	単位コスト d/a (千円)			154.3千円/km	108.2千円/km	2,119.2千円/km	9,104.6千円/km	3,791.3千円/km	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 活動実績とし、H20の污水管清掃の延長とした。28m。直接事業費は、污水管清掃費用を計上し、人件費は、6,137千円×2名×1/12=1,023千円とした。H24は排水管TVカメラ調査、伏越管清掃を実施した。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績 (km)			0.028	0.042	0.981	1.134	2.006			
	後期目標値に対する達成度 (%)			0.07	0.10%	2.65%	3.06%	5.42%			

### 3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価				A	A	A	A	A			

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する  
 B : 事務事業の実手法や環境 ( 予算的・人的 ) に改善が必要  
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要  
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性 ( 必要な事務事業であるか )  
 公共性 ( 公が実施する意味があるか )  
 妥当性 ( ニーズに対して投入が適正か )  
 効率性 ( 結果に至る活動に無駄はないか )  
 有効性 ( 活動の結果が上位の目的に貢献しているか )  
 市民満足度 ( 事務事業が対象にしている市民を満足させているか )

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度			
平成19年度			
平成20年度	現状では最低限の維持管理しかできていないのが実情、計画的な維持管理が必要。	下水道施設ごとに年度計画を作成し、計画的な維持管理を図る。	従来どおりの維持管理で、先を見た計画的な維持管理ができなかった。
平成21年度	"	"	"
平成22年度	現在は、財源の許す限りの単年度計画で最低限の維持管理しかできていない現状だが、先を見据えた長期計画的な維持管理ができるようにしたい。		
平成23年度	現在は、財源の許す限りの単年度計画で最低限の維持管理しかできていない現状だが、先を見据えた長期計画的な維持管理ができるようにしたい。		
平成24年度	現在は、財源の許す限りの単年度計画で最低限の維持管理しかできていない現状だが、先を見据えた長期計画的な維持管理ができるようにしたい。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

### 4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度		
平成19年度		
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度	A	継続して事業を進めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度	A	継続して事業を進めること。
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		